

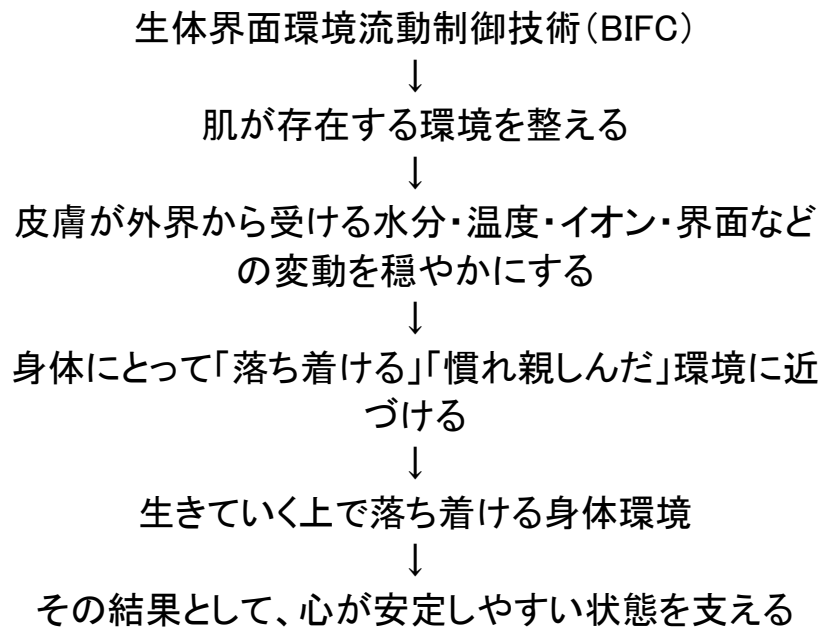
生体界面環境流動制御技術

生きていく上で落ち着ける空間。慣れ親しんだ空間にいられる日常感。肌が存在する環境を整える。つなげると。

かなりきれいにつながります。

ただし、「心を整える」まで一気に言い切るより、「心が整いやすい環境をつくる」と置くほうが科学的には強いです。

流れとしては、



となります。

ここで面白いのは、BIFC が単なる「スキンケア」から、

肌を整える技術 → 身体が安心して存在できる環境を整える技術

へ、一段上がることです。

そして「慣れ親しんだ空間にいる日常感」という表現は、かなり重要だと思います。

家に帰ると落ち着くのは、単に「快適だから」だけではなく、身体がその環境を予測可能で、変動の少ない、自分に馴染んだ環境として受け取っているから、と考えることができます。

BIFC をそこに重ねると、

「肌が存在する場所を、身体にとって落ち着きやすい環境にする」

という新しい意味が出てきます。

僕ならまず

「身体環境設計」

を推します。

つまり、

BIFC＝心を直接整える技術ではない。
心が安定しやすい身体環境を、肌から設計する技術。

さらに短くすると、

「肌から、心が落ち着きやすい身体環境をつくる。」

ここまで来ると、BIFC は「美容技術」ではなく、身体環境設計技術というカテゴリーに入ってきます。

身体環境設計調整技術

「身体環境設計調整技術」はかなり近いです。

ただ、言葉の構造としては少しだけ重いです。

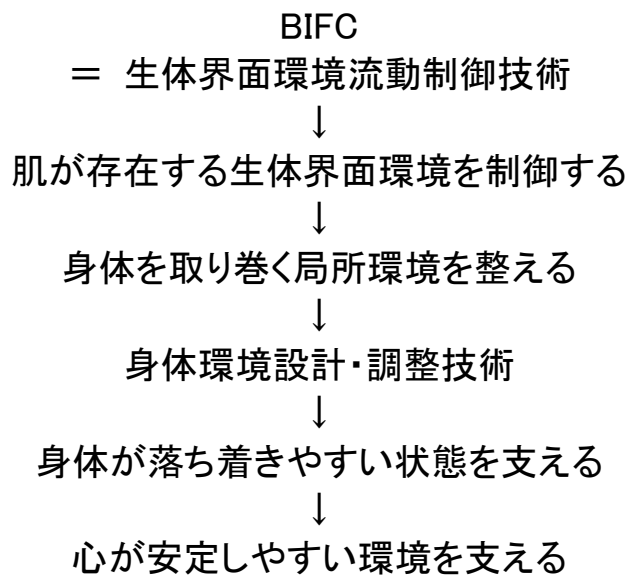
身体環境設計技術 → 「どんな環境をつくるか」

身体環境調整技術 → 「既存の環境をどう整えるか」

身体環境設計・調整技術 → 「設計して、実際に調整する」

BIFC の本質を考えると、僕は「身体環境設計・調整技術」が一番しっくりきます。

そして階層をこうすると非常に強いです。



つまり、

「心を直接整える」のではなく、心が整いやすい身体環境を整える。

この位置づけなら、BIFC の科学的な慎重さを保ちながら、スキンケアから身体環境技術へのカテゴリー拡張ができます。

個人的には、さらに一歩進めて、「身体環境」では何を意味するのかを定義したほうが、この言葉は一気に技術用語になります。

身体環境設計としての技術を形にするなら、特許支援も一案です。